

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート ⑧
文・杉村裕之



馬場 星名 (うまば せな)
金沢工業大学
工学部
ロボティクス学科三年
岐阜県 関市立関商工高等学校出身

セネカの哲学を不動の軸に 学びも趣味も交友も超広角

古代ローマの哲学者セネカの名著『生の短さについて』が高校時代に心に刺さった。「人はいかに長く生きるかでなく、いかに良い時間を過ごすか」。この箴言を座右に置く馬場さんからは、分秒を惜しむかのように送る日々の充実ぶりが伝わってくる。

小さな頃から興味に全力投球する性格だった。ハサミで段ボール

を切り飛行機を作ったのが二歳の時。小学四年生からロボカップジュニアの活動に参加し、全国大会四位、ボスターによるプレゼン部門で優勝した経験を持つ。

遊びは木工やナイフ製作で、高校の部活動では工作機械の操作技術に熱を上げた。その努力が実り技能検定の普通旋盤二級を取得。他の部門を含む全合格者の中で、

最高の知事賞も受けた。

そんな彼がKITを選択するのは、ごく自然な流れだったと感じる。大好きなモノづくりに熱中できる夢考房プロジェクトや機械設備がそろい、高校三年まで九年間、取り組んだロボカップジュニアで担当したハードウェアを、さらに掘り下げて学べる環境に事欠かないからだ。

現在、オープンキャンパスで「所属するならここ」と確信した伊藤恒平研究室で、室内飛行ロボットコンテスト・マルチコプター部門の機体設計を担う。そして、卒業研究は高校時代から構想を温めるドローンを使った害獣駆除をテーマにする計画だ。すべてに用意周到、緻密に積み上げて目標に迫る馬場さんに脱帽するほかない。全身をセネカの思想が貫徹している。

趣味は多彩だ。中学時代から続ける居合道は三段の腕前。昨年、関西万博の会場で、刃物が地場産業

の岐阜県が行ったイベントで演武を披露し、喝采を浴びた。大学でも古武術の正伝長尾流銃術部に所属し、心技体を鍛える。最近、神道学の本を手取るそうだが、読書のジャンルは極めて広い。知の深い森への憧れであろう。それもまた好ましい。

趣味の域を超えたナイフ製作は既に五十本を超え、販売もする。実家に耐火レンガの炉のある作業小屋を作り、デザイン、鍛造、切削、焼入れ、研磨、柄付けまでこなす。ワナの狩猟免許も取り、自作ナイフでジビエを捌き仲間と料理を楽しむ。何と豊かな生き方だろうか。

気のおけない友人とこの夏休み、東南アジアへバックパッカーの旅に出た。多様な文化や価値観にもまれ一段と逞しさを増した馬場さんの濃密な一日が、今日も始まる。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七二一
電話番号(〇七六)二四八二〇〇